

酒々井町

# 郷土研究会会報

第142号

平成23年10月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

《郷土研究会発足35周年記念》

## 『本佐倉城跡周辺の 史跡と自然』展を開催

会期 10月25日～29日まで

郷土研究会は昭和52年の発足以来今年で35周年を迎えました。この記念事業として『本佐倉城跡周辺の史跡と自然』をテーマとした展示会を開催することとなりました。

日時、会場、展示内容などは下記の通りです。役員の方々がこの猛暑の中、手分けして調査し、その成果を写真等で展示します。是非ご高覧いただきたいと思ひます。

なお、前号のトピックスでテーマを「中世の酒々井を考える」とお知らせしましたが、展示内容が広範囲に及ぶことから『本佐倉城跡周辺の史跡と自然』に変更しました。

### ◆日時

10月25日 (火) 13時～17時

10月26日 (水) 9時～17時

10月28日 (金) 9時～15時

10月29日 (土) 9時～15時

10月25日 (火) 13時～17時

### ◆会場 中央公民館1階ロビー

### ◆展示内容

① 本佐倉城跡Ⅱ関係資料や図面などを通し、築城から落城までの約120年の歴史をたどる。

② 酒々井宿Ⅱ酒々井宿の成り立ち、佐倉牧との関係、宿の中心として栄えた勝蔵院の解説、明治初期の酒々井宿見取り図などを展示する。

③ 城跡周辺の神社・仏閣Ⅱ城内の妙見社、諏訪神社をはじめ成田街道及び296号沿いの神社、

④ 城跡周辺の石仏・石像Ⅱ弁天様、庚申塔、双体道祖神をはじめ、周辺の石像を写真で解説する。

⑤ 城跡周辺の植物Ⅱ城跡内および周辺の野草、樹木について、その種別や分布状況を写真などで解説する。

⑥ 千葉氏の人物像Ⅱ桓武天皇からの略系図、本佐倉城歴代城主の略系図及び主たる功績を解説し、千葉氏の人物像を探る。



本佐倉城  
マスコットキャラクター  
勝っタネ!くん  
© 2011 酒々井町教育委員会

### 酒々井の手習塾「青樹堂」

—石井家資料の紹介—(下)

社会教育課文化財調査員

中島丈晴

石井家資料には師匠と弟子の関係を示す資料、一つは「青樹堂入塾者名簿」、いま一つは「青樹堂門人連名帳」が残されています。両者共にとても興味深く、また貴重なものです。そこで今回では、これらの資料の検討を通して、青樹堂における学問を介した師匠と弟子のつながりについて見ていきたいと思います。

まず「青樹堂入塾者名簿」です。これは明治以降に写されたもので、題名などはありませんが、内容から青樹堂への入塾者を記した名簿と考えられます。嘉永2年(1849)から明治元年(1868)までの間に延べ330人(男229人、女101人)が書き上げられています。明治4年(1871)に建立された「寿陵」(石井平兵衛墓)には「弟子三百余人に至る」(原漢文)と刻まれています。本資料によって、それ

を具体的に裏付けることができま

た。また青樹堂では女子教育が盛んだったということも分かりました。比較のため、かつて藤原新田(現船橋市)にあった手習塾「安川舎」の事例を見ると、延べ896人の弟子のうち、女子は62人でした(『船橋市史近世編』、『同史料編十』参照)。延べ人数に占める女子の割合は、青樹堂が30.6%、安川舎が6.9%となり、青樹堂がいかに女子の多い塾であったかが分かります。それでは、入塾者の居住地はどのあたりにまで及んでいたのでしょうか。現在の市町村別にまとめると以下のようになります。

#### 〔酒々井町〕

尾上村・柏木村・上岩橋村・酒々井町(新宿・上町・中町・下町・横町)・下岩橋村・下代村・新堀村・中川村・根古屋・浜宿・トヶ崎・本佐倉町・八木野村

#### 〔佐倉市〕

間ノ町・大佐倉町・大佐倉村・鏑木村・肴町・弥勒町

#### 〔印西市〕

印西平賀・別所村

#### 〔四街道市〕

栗山村

#### 〔その他〕

上総横宮・堀ノ内・武射郡浅川村

現酒々井町域が最も多いのは当然ですが、印西市や四街道市、遠くは武射郡にまで及んでいます。当時の人々にとっては通えない距離ではないのでしようが、やはり大変です。それゆえでしようか、遠方からの通学者は青樹堂の近くに寄宿していました。いくつかの事例をあげておきましょう。

「栗山村 はま宿菊間より通ふ」

「武射郡浅川村油本佐倉町常盤や吉右衛門より通ふ」

栗山村からの通学者は大佐倉浜宿の菊間氏宅より、武射郡浅川村からの通学者は本佐倉町常盤屋より青樹堂に通っていたことが分かります。



「青樹堂入塾者名簿」のうち栗山村の部分

どのような縁故によったものかは不明ですが、そうまでしても子供たちに通わせる魅力が、青樹堂にはあったのでしよう。

次に「青樹堂門人連名帳」です。これは、「寿陵」建立に際しての弟子達からの寄付金の書上げで、明治4年8月に作成されました。1ページ目には「寿陵」の寸法を記した絵図面(設計図)が描かれ、また使用する石材をはじめとした細かい指示が記されています。その指示内容をまとめると、

① 石材は石碑に良いとされる(「近世職人尽絵詞」小松原石を用いること)

② 水磨きで仕上げること

③ 文字彫りなどの細工は極めて念入りに行くこと

④ 建立代金は30両かかること

⑤ 碑文の代金は一文字につき銀壺匁であること

⑥ 碑石に彫る弟子名の代金は1人につき銀壺匁であること

となります。造作と代金について細かく取り決められています。こうした取り決めに基づき、翌9月に「寿陵」が建立され、それはいまも石井家の菩提寺に現存しています。

そこで現存する「寿陵」と比較してみると、墓石の形といい、他の墓石とは異なる黒々とした重量感に溢れる石材といい、まさに資料の指示通りに建立されたことが分かります。このように「寿陵」の実物とその作成に関わる資料がセットで残されているのは、全国的に見てもきわめて珍しいのではないのでしょうか。本資料が大変価値ある理由はここにあります。

では、弟子達からの寄付金はどれだけ集まったのでしょうか。これは石井平兵衛がどれだけ弟子達から敬慕されていたのかということをも意味します。

資料は保存状態があまり良くなく全文を判読することは困難なのですが、分かる範囲だけでも30両2朱の寄付金が集まっています。「寿陵」を建てるには十分な額です。

また「寿陵」の台石には203人の弟子の名前が彫られています。これには先に述べたように、1人につき銀壺匁の彫代がかかります。ここからは、建立代金の寄付金だけでは飽き足らず、さらにお金を払ってでも師匠のお墓に弟子である自分の

名前を刻みたいという、師匠に対する弟子達の報恩の気持ち伝わってくるようです。

このように、金銭的な面だけを見ても石井平兵衛がいかに弟子達から敬慕されていたかが窺われますが、加えて「寿陵」が建てられた場所にも注目してみましよう。いまは石井家菩提寺にある「寿陵」ですが、当初は勝蔵院境内(大師堂の右脇)に建立されていました(『酒々井町の歴史』43ページに写真あり)。勝蔵院は「酒々井のお不動様」と言われ、かつての酒々井宿の中心でした。「青樹堂」からも近く、住民にとっても身近なこの場所で供養しようとしたところ、師匠を敬慕する弟子達の気持ちがよく反映されているように感じます。



「青樹堂門人連名帳」表紙



## 郷土史講座を受講して

酒酔しすい街童がいど

この度、郷土研究会が主催する郷土史講座『白井氏と原氏』を受講させていただきました。冒頭の説明で郷土史講座は毎年8月の終わりの日曜日に開催し、今年で35回目という事でありました。という事は35年間も継続してきているという事であり、この講座を始められた方、その後を引き継いで守り育てられてこられた方々の、並々ならぬ努力の賜物と感心と敬意を払うものであります。

また、講演会場は机のある席は満員となり、椅子のみの席に座っている方々もおられる程の盛況で、酒々井町の人は郷土やその歴史について



盛況の中で行われた郷土史講座

興味や関心を持っていてる人が多いのにも驚かされました。

それだけ採りあげるテーマも皆さんが興味を惹かれるようなテーマを選んでいるのだらうと、またまた感心する次第です。

さて、千葉氏は戦国時代の大大名であるが、宗家筋での内紛が多い。下総に入って以来、各地を開墾してきた。また、白井氏も現在の佐倉市を中心し各地を開墾してきており、安房のように低いとはいえず、山々に囲まれた地形では氏、兵士を養ってゆくには大変で、上総・下総へ進出していく以外には、発展の余地がない国と違い、千葉氏が当初居城としていた千葉庄では稲作には困らなかつたのではないかと思われる。

国内が安定してきたのは印東庄に移って、庶子の輔胤になってからであるが、その後安泰であったかという点と力関係では原氏が牛耳っていた節もあり、必ずしも主家筋が力を持っていたようではなさそうである。

現在の選挙のように地盤(下総)、看板(桓武平氏)、カバン(石高)に不満があったとは思われない。逆にそれらが裕福過ぎて、その利権争い

が主だったのか。ここへもってきて関東管領と足利公方、また、古河公方と小弓公方との内輪もめ、これに加えて親戚関係である白井氏その後の原氏の、ある時は敵対し、またある時は味方になるような離合集散とテレビドラマでも見られないような複雑な絡み合いが行われていた。

小生のようなぼんくら頭には時代の変遷、登場人物の名前、起きた事象など覚えられず、何がなんだか分からない状況が続いていた。

今回の講座はこの内の白井氏と原氏に焦点を当て、古文書等の資料を基に時系列的に説明されて、頭の中ではこんがらがっていた歴史の糸が僅かながらほぐれたような気がしてきました。

話は変わりますが、最近ある市の歴史ウォーキングに参加する機会を得た。そこで感じたことは、酒々井町の歴史の深さ、残っている史跡の多さでありました。本佐倉城跡、庚申塚、(双体)道祖神、道標、宿場としての町並みの名残りなどは、大いに自慢できるものであり、大事に守ってゆかねばならないなど感じた次第です。

へ酒々井の方言

|| ベーベー ||

大川昌克

地域が異なることにより、使われる言葉に違いがあることを方言とい

う。現在では標準語が普及して、家庭などのくつろいだ場所では方言を使ったりするが、普段の日常生活では使われなくなっている。地域の共通語である方言は飾り気がなく、温かみを感じさせてくれる。この地域の方言は俗に『ベーベー』

ことば』といわれるもので、千葉・茨城両県の利根川流域で使われる言葉である。「・・・しましよう」、「・・・だろう」、「あるいは「・・・でしよう」など、話し手が意思や推量、勧誘、行為の意を表すのに『ベー』、『ぺ』

	方言	標準語		方言	標準語
動	あぶらむし	ゴキブリ	植	えびづる	野ブドウ
	えびがに	ザリガニ		げえーろっぱ	オオバコ
	かまちよろ	トカゲ		じじばば	春蘭
	かもちん	ライギョ		たらんぼ	タラノキ
	くちやめ	マムシ		とろいも	ヤマイモ
	こうすいとんぼ	糸トンボ		とんがらし	トウガラシ
	さいかち	カブトムシ		とんぼぐさ	カタバミ
	とうか	キツネ		とんもろこし	トウモロコシ
	はがじ	ムカデ		ぼうずばな	ワレモコウ
	むぐつちよ	カイツブリ		ぼんばな	カワラナデシコ
	カナカナ	ひぐらし蟬		デーコ	ダイコン
	オーガムシ	カメムシ		ネンジン	ニンジン
	スイッチョン	ウマオイ		たうえぐみ	夏グミ
	ナーゴ	イナゴ		ジゴクソバ	ドクダミ
	ゲーロ	カエル		ズイキ	サトイモの茎
オンパク	ガマガエル	ペンペングサ	ナズナ		
物	いし	君	そ	いじやける	焦れる
	かんがいしゃ	占い者		おっかない	恐ろしい
	きんぴら	おてんば娘		きない	来ない
	さいばん	まな板		こわい	疲れた
	ざつつあーぶり	大雨		こなんない	耐えられない
	じゃんぼん	葬式		すっけい	酸っぱい
	しゅうげん	結婚式		とっぴょうしもない	途方もない
	たっぺ	霜柱		びだける	甘える
	ひぐれまぐれ	夕方		ひやっこい	冷たい
	めんち	面子		まです	おしまいにする
	ライさま	雷		かれえ	辛い
	オテントウサマ	太陽		にげえ	苦い
	ふっかけ	にわか雨		もったねえ	もったいない
	ゆんべ	昨晚		ゆぶい	煙い
	アシタン朝	明朝		かったるい	だるい
名			他		

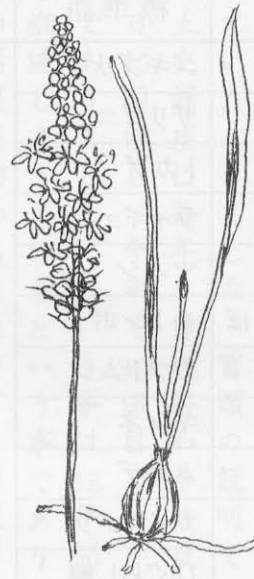
方言の単語にも地域の特性を持つものや標準語に近いものがある。現在でもある程度理解できる言葉の中から思いつくまますらべてみると表の通りである。

「遊んべー」や「行くべー」などが良い例で、この「べー」も地域により「だっぺ」や「だへー」と違いがあるから厄介である。方言の単語にも地域の特性を持つものや標準語に近いものがある。現在でもある程度理解できる言葉の中から思いつくまますらべてみると表の通りである。

観察メモ

ツルボ (ユリ科)

野草部



芝生、土手、墓地等に群れて生え、高さ20〜40センチ、地中に2〜3センチの球根をつくりまします。

花は8〜9月淡い桃色の小さな花が穂状に付き、下から上に咲きます。園芸で栽培されているシラーは同じ仲間です。春に葉のみを出し枯れてしまいい、8月葉と同時期に花が咲きます。ヒガンバナ科のヒガンバナとキツネノカミソリは、花と葉の出る時期が異なるので「花は葉知らず、葉は花知らず」と言われています。ツルボは、春には葉のみですが、夏には葉と花が出会える幸せな植物です。

別名「サンダイガサ」 参内傘。昔、公卿が宮中に参内する時に、供人がさしかけた傘にツルボの花穂を見たためのものです。酒々井町内にもあちこち

で見られ、本佐倉城跡等にも群落を見つれることが出来ます。

酒々井の伝説

「お話その2」

百とらずー下がり松

酒々井小学校から成田の方向に三百メートルほど行くと長い下り坂になる。このあたりは通称「下がり松」と呼ばれているところで、ここからは印旛沼が一望でき、昔からビューポイントとしても有名であったところである。

昔は道が細く曲がっていて、両側は松の並木に覆われていて、昼なお暗いところでした。しばしば追剥が出るなど大変物騒なところで、日が暮れると人の往来も途絶えてしまします。

ある夕方、貧しい暮らしの若者がやむにやまれぬ用事でここを通りかかりますと、道端に『百文』のお金が落ちていた、これは神様が授けて

くれたのだ」と拾おうとして、ひよいと脇を見ると、なんと首つりがぶら下がっていたのでびっくり仰天。百文を拾うどころでなく、そのまま後ろも見ずに逃げ帰ってしまいました。

その話を聞いた人たちが誰いとうなくこの場所を『百とらず』と呼ぶようになったということです。

(『印旛郡誌』より)



「成田名所図会」

この絵図は「下がり松」からの眺望の図柄といわれており、印旛沼と筑波山が望める



見学

案内

日帰り見学会

銚子方面

10月11日 (火)

(雨天決行)



日本有数の水揚げ高を誇る漁業の町、銚子を訪ねます。

樹齢数百年のうっそうとした森林に囲まれた猿田神社は、天孫ニニギ尊を高天原から日向の高千穂まで道案内をした猿田彦命をお祀りしています。

犬吠崎灯台はイギリス人の設計による西洋型第一等灯台で、平成10年に「世界の歴史的灯台百選」に選ばれています。

ウオッセで自由昼食の後、ヤマサ醤油を見学します。

銚子の醤油醸造業は三百年以上の歴史と伝統を誇っています。

利根川の河口にあって原料を産地から運び込んだり、製品を江戸に運び出すのに便利でした。

巡礼の歴史と伝統を受け継いで開創された満願寺には、西国・坂東秩父の百観音霊場の本尊を勧請し奉安

した御堂があります。観音さまに参詣して帰途につきたいと思います。

名勝探訪

平和の礎「戦争遺跡」を歩く

12月8日 (木)

雨天代替日 12月13日 (火)

戦後66年、かつて軍都と呼ばれた千葉市には陸軍の施設がたくさんありました。現在は平和な学園地域になっていくこの地域にも、往時を偲ばせる史跡が点在しています。これら史跡のいくつかを訪ね、過

去に思いをはせるとともに、「戦争の悲惨さ、平和の大切さ」を次代に語り継いでいきたいと思います。

トピックス

★平成23年度酒々井町史跡ウォーキング(史跡巡り及び史跡検定付き)が今年も10月23日(日)に開催されます。当郷土研メンバーも史跡ガイドいたします。お出かけ下さい。★今年の郷土史講座「白井氏と原氏」は8月28日(日)70名の出席を得て開催することができました。面白かったのは上杉謙信が大軍を率いて白井城を攻めたが本丸までは攻めきれず五千名の死者を出して退却したこと。これが戦国武将上杉氏唯一の退却であったことなど楽しいひとときでした。

あとがき

今年の郷土研究会の活動も、いよいよ最終コーナー(第四期)を迎え余すところ、あと3か月となりました。各種行事が予定されています。是非お友達や知人等お誘いの上ご参加下さい。

郷土研日誌		
月日	内容	参加者
23.6.2	会報141号印刷	4名
6.29	カレッジ講師派遣「酒々井の歴史」	1
6.29	会報141号発送	16
7.02	史談会「中世の佐倉」①	23
7.19	研究会「35周年記念行事」検討	13
8.23	研修部会	8
8.28	郷土史講座「白井氏と原氏」	70
8.30	運営委員会	18
9.03	史談会「中世の佐倉」②	26
9.03	住民協働課定例打ち合せ	1
9.05	名勝探訪下見「加曽利方面」	5
9.06	文化協会理事会	1
9.08	会報編集会議	6
9.13	名勝探訪「加曽利貝塚他」	39
9.16	会報編集会議	6
9.20	研究会「展示打ち合せ」	14
9.21	会報編集会議	5

郷土研行事案内

平成23年10月~12月

<p>史談会</p>	<p>10月 1日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」③ 講師：高橋健一先生</p>	<p>11月 休講</p>	<p>12月 3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「中世の佐倉」④ 講師：高橋健一先生</p>
<p>日帰り 見学会</p>	<p>「銚子方面」 10月11日(火) 雨天決行 集合時刻・場所 8:45 中央公民館 参加費 300円 (昼食代は含まれません) 町バスを利用します</p> <p>コース 中央公民館—猿田神社—犬吠崎—ウオッセ(昼食)—ヤマサ醤油(見学) —満願寺—中央公民館 16:30 解散予定 (一部コースに変更の場合あり) 問合せ 寺本 [ ] まで</p> <p>&lt;申込受付&gt; 中央公民館ロビーにて 10月4日(火) 9:00 から、先着33名です。</p>		
<p>郷土研究会 創立35周年 記念展示会</p>	<p>テーマ 『本佐倉城跡周辺の史跡と自然』 開催日時 10月25日(火) ~ 10月29日(土) 10月25日 13時~17時 26日~28日 9時~17時 29日 9時~15時 場所 中央公民館1階ロビー 展示内容 (詳細は1ページに掲載) ・本佐倉城跡 ・酒々井宿 ・城跡周辺の神社・仏閣 ・城跡周辺の石仏・石像 ・城跡周辺の植物 ・千葉氏の人物像 以上の項目に関して調査・研究した成果を図面や写真等で展示する。</p>		
<p>名勝探訪</p>	<p>千葉方面 —平和の礎「戦争遺跡」を歩く— 12月8日(木) 雨天代替日 12月13日(火) 集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅 改札口前 参加費 100円(資料代) 交通費各自負担</p> <p>コース JR酒々井駅—千葉駅…千葉公園…鉄道大隊記念碑…千葉病院(旧陸軍病院) …川光倉庫(旧気球連隊格納庫)…作草部公園(平和の礎)…なわしぼり塔 …大日寺…来迎寺…西千葉駅 西千葉駅にて12:30頃解散予定 (一部コースに変更の場合あり) 問合せ 寺本 [ ] まで</p>		